ともかき

発行所
東京都立三田高等学校
青葉会
（同窓会）
港区三田1丁目4番46号
電話（453）1991㈹

青葉会の集いせまる!! 11月23日

昨年より勤労感謝の日に同窓会（青葉会）を毎年設定することに決定して、今回が二回目です。

本年は月曜日に当ります。年一回懐しい同窓生に会えるのでもあります是非ご米会をお待ちして居ります。当日は次のように予定しております。

とき　昭和56年11月23日
　　午後1時開会
ところ　母校音楽講堂
行事(1)議事（経過報告）（会計報告）
　(2)懇談会（ご担任だった先生や級友との歓談待間設定）
会費　千五百円（当日持参）

※出席希望の方は事務局まで電話かハガキでご連絡いただければ幸に存じます。

石田弘会長　早いもので本年度の青葉会を目前にし、役員一同とその準備にあらはです。年一回の会合であり級友の近況、職場の色々、また年一回の「ともがき」の発行をたやさぬ対策、会の財政向上等々話しつきぬことかと思います……牛けるる楽しみを頒ちあおうではありませんか。是非のご来会をお待ち致しております。

定時制は、"今"

名誉副会長
教頭　久保道雄

「働きながら学ぶ」いわゆる勤労青少年のための高校教育の場である定時制も、ここ数年来、急速にその質を変えつつあります。

かつては地方出身者が過半数をしめて、文字通り働く者の学びやでありましたが、今や都内の中卒者が大部分となり、年々無職者の数をましています。今年度の一年生についての調査では約半数が無職者という結果が出ています。これでは勤労者の為の高校とはいえません。

又、都立高校定時制の生徒数も十数年前には約五万名を数えましたが、今年度は一万六千名というありさまです。

本校も以前は十二学級の規模で数百名の生徒を擁していたそうですが、現在は八学級となり、生徒数も約百三十名です。

五十四年度から中卒者数がふえて来ましたので、定時制への入学者も増加しました。しかし、これも地域的な差異が大きく、都心部にある本校などはやや増加した程度です。

この中卒者数の増加は来年度を除き、年々上昇線を画き六十二年度にはピークに達します。しかし翌年度からはまた減少をはじめ、急激に減少するものとみられています。

来年度はご存知のようにヒノエウマ生まれの中卒者を迎えるわけで、今年度より約一万二千名も減少するといわれています。

今年度、九校について一年生の募集停止が行われた定時制にとってはこの一時的とはいえ、生徒の減少は大きなショックです。さらに六十三年度以降の中卒者の急減期を考えると、まことに頭の痛い状況です。

このように定時制は、いま、質的にも、量的にも大きな変革の時期を迎えています。

将来の定時制のあり方をめぐって、行政当局も、定時制教育担当者もいま真剣にその検討を行っています。

都立高校定時制がどのような道を辿るにせよ、私達は全職員が一体となって、定時制教育の充実発展を期し、この五十年余にわたる輝かしい歴史と伝統を誇る本校定時制を守り抜いてゆく覚悟です。皆様方の一層のご支援を期待しています。

55年度決算報告

（56年3月31日現在）

摘要	金額	摘要	金額
（収入）		（支出）	
前期繰越金	575,695	印刷代	215,900
56年卒業生会費（35×2000）	70,000	通信費	84,050
寄付金	125,000	会議費	15,950
名簿代	1,000	書類棚	28,000
55年懇親会収益金	18,603	次期繰越金	446,398
計	790,298	計	790,298

青葉会の皆さんへ

名誉会長
学校長　杉村親一

青葉会の皆さん、お元気でしょうか。ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。日ごろから母校三田高校に対して温かいご支援をお寄せいただきありがとうございます。お陰さまで職員生徒ともども混迷と流動を続ける今日の世情の中にも、本校の確乎たる伝統の光に導かれながら、着着と教育の成果をあげるために努力を続けております。

この春三月には、三十五名の卒業生が青葉会の新会員として送り出されました。いよいよ青葉会も会員数四七〇〇名を越え、会員の皆さんの活躍の分野も、官界、教育界、実業会、芸能界など多岐にわたり、なかには芸術方面で第一線に立っておいでの方や、また海外で活躍しておられる方も想像以上に多いと伺っています。もちろん立派な家庭人として子女育成、教育にあたっておいでの方も大勢おいでのことと思います。

私も着任三年目を迎え、ようやく三田高職員らしくなったと自負しています。本校の校風になじんだといってもいいかと思います。学校には校風があります。風は目に見えませんが、草は風によって一定の方向へなびくものです。校風というものは、そんなものだというので校に風をつけたのでしょう。校風を作るのはその学校の生徒と先生であり、その影響を直接受けるのもまた、生徒と先生でありましょう。

卒業生の皆さんの学校時代の思い出は、時代によってさまざまでありましょうが、伝統や校風に培われた三田高生のムードというものは、いつの世でも変らないものです。

今年の入学式に、私は"ボーイズ・ビー・アンビシャス"の言葉で有名な札幌農学校のクラーク先生の話をしました。

「明治十年七月十六日、クラーク先生は札幌農学校での八ヵ月の生活に別れを告げ、帰米の途につきました。生徒は馬に乗って先生を途中まで送りました。札幌から二十四キロはなれた島松駅で、単騎、室蘭に向かう先生に十余人の生徒は手をふって別れました。その時、生徒たちに残したのが有名な次の言葉です。

《少年よ、大志をいだけ。それは人が呼んで名声というような、むなしいものを手に入れるためであってはならない。一個の人間として、当然そなえなければならないすべてをなしとげるために大志をいだけ》

これによると、少年が大志をいだき、努力すべきゆえんは、世俗的成功や名声のためでなく、一個の人格となるために、ということにあります。クラーク先生は生徒を細かい規則でしばって、あれをしてはいけない、これをしてはいけないというふうにはせず、ビー・ジェントルマン一つでいいと言ったということです。ビー・ジェントルマンになろうと志すこと、これこそ人志なのです。」

ゆとりと自主性を重んずる本校の校風を説明する代わりに私は「ビー・ジェントルマン」「ビー・レディ」を新入生に訴えました。

八〇年代を迎え、目下、本校は国際化時代にふさわしい特色ある学校づくりに取り組んでいます。新しい時代の新しい教育の方向を求めているわけですが、半世紀にわたって皆さんが培って下さった伝統や校風、生徒の気質やムードはどんな時代になっても消えることなく、変ることなく受け継がれていくと信じます。

青葉会の皆さんの温かいご支援をお願いし、皆さんのご多幸とご発展をお祈りします。